

## 事業完了報告書（岸和田市）

### 調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 令和7年3月14日
調査研究事項	<p>≪委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究≫</p> <p>I. 教育課程、教育環境整備に関すること</p> <p>③中学校教育を実施するに必要な、日本語を母語としない方向への日本語指導の在り方（教育環境の整備を含む。）</p>
調査研究のねらい	<p>令和6年5月1日現在、在籍者数91名のうち、日本国籍が6名（フィリピンからの帰化1名を含む）となり、夜間学級の役割が大きく変わってきている。日本に仕事を求める外国人が増加するに伴い、市内小中学校に居住する外国籍の児童生徒が増加傾向にある。これは、本市が近隣の空港からのアクセスもよく（急行列車や特急列車の停車駅）、利便性が高いことに起因しているものと思われる。また、同郷出身の外国人同士のコミュニティスペースが本市もしくは近隣市</p> <p>に根付いたことで、生活の場、働く場、学習の場の重なりが生まれ、結果的に夜間学級における外国人の在籍者が占める割合も増加しているものと分析している。また、本学級では、外国人生徒の増加に伴い、多国籍化も進んでいる。これまでは日本語での指示や指導を補う際に、第2言語として英語を習得している生徒の割合が高かったため、英語での補助的な指示や指導を行っていたが、少しずつ英語圏ではない生徒が増加したことにより一斉での指示や指導内容が伝わらず、個別に対応しなければならないことが度々起こり、個に応じたきめ細かい指導の必要性が高まっている。</p> <p>また、今後、多文化共生社会の形成のため互いに置かれた立場を考え、地域社会の中で理解し合い、認め合って生活していくことが求められる。</p> <p>本事業を活用することにより、教育環境を整え、就労しながら学習を続けている生徒たちの努力や夜間学級の現状等を地域社会に改めて広く周知し、生徒のエンパワメントに繋がる取組みを推進したい。</p> <p>① 国籍、年齢、学習経験等、多様な生徒に対応できる、個に応じたきめ細かな教育課程や学習指導法、並びに生徒一人ひとりの課題を解決できるような教材の作成について調査研究をすすめる。そのために、各授業ごとのふりかえりアンケートや学期末にアンケートを実施し、生徒一人ひとりの理解度を確認する。その結果をもとに、学習指導法や教材の内容について検討改善を行う。</p> <p>また、ICT機器や具体物を活用しながら、視覚的に分かりやすい教材や教具の作成を行い、生徒の習熟につなげていく。</p>

	<p>② 生徒の持つ文化的背景（言語、宗教、食事、生活習慣など）を知ることや多文化理解を深める研修・研究を充実させることで、教職員の専門性を高めるとともに、指導力の向上を図る。</p> <p>③ 学習指導だけでなく、様々な学校行事を行う中で、生徒同士や生徒と教員間の相互理解を深めていく。特に異なる文化的背景をお互い理解し合えるような行事の実施を推進する。特に泊を伴う秋の校外学習においては、行程や内容を工夫し、どの生徒も理解し、参加できるような取り組みができるよう調査研究を行う。</p> <p>④ 1人1台配布されているICT機器を、高齢者や外国人にも積極的に活用できるよう指導方法や、仕事で欠席しがちな生徒にも取り組めるような課題について研究する。</p>
<p>調査研究の成果</p>	<p>今年度は、秋の入学生10名を含めた101名の在籍生徒の94%が外国人で、中でも来日して日が浅く日本語がほとんど理解できていない生徒も多い。また、外国人生徒の増加に伴い、多国籍化も進んでおり、一斉での指示や指導内容が伝わらず、個別に対応しなければならないことが度々起こり、今まで以上に個に応じたきめ細かい指導の必要性を実感している。そこで、以下の観点をもとに指導の充実と調査研究を実践した。</p> <p>○個に応じた指導体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入学生には、入学時に日本語能力の確認を含めた面談を行い、在校生には、前年度の習熟状況を踏まえ、生徒一人ひとりの課題や目標を適切に把握した上でクラス分けを行った。また、クラス内でも習熟については、個人差があるため、個別の課題を作成し、できる限り複数の教員が指導に当たりきめ細かな対応ができるような体制を構築した。</li> <li>・必要に応じて、翻訳ソフトを活用し、母語による支援を行いながら習熟度が高まるよう指導方法を工夫した。</li> </ul> <p>○学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導を含む学習指導の際には、学んだ内容が日常生活の中で活きるよう、各教科で扱う単元内容や課題設定を工夫しながら進めた。特に、生徒自身が実際に経験するであろう場面（日常会話や買い物、病院受診など）を想定した言葉の使い方や伝え方、日常会話を聞き取る活動を重点的に取り入れた。また、今年度は、宿泊学習（姫路・広島）を目標の一つとして位置づけ、行程の中で必要となるであろう場面を想定し、身につけたい内容を各教科に関連づけながら学習指導を行った。成果として、学習した内容が日常生活を送るためのスキルとなり、自信を持って生徒自身が日常生活に活かすことができるようになった。これらの学習を積み重ねたことで、学習への意欲・関心を高めることにもつながっている。</li> </ul>

・日本語レベルや習熟度に関係なく、どの生徒にとっても理解できるよう、積極的に視覚教材や具体物を用いた。また、より生徒たちの興味関心が高まるように、本校独自に作成したものを使用したり、プリントもカラーで印刷したりするなどの工夫を行った。

・大阪府教育委員会から配置された日本語指導支援員を中心に、6月と12月に日本語能力を測るアンケートを実施し、生徒一人ひとりの理解度を確認した。検証すると日本語の語彙力が確実に身につけていることが分かった。この結果をもとに、教員間で分析し、さらに日本語能力を高めるための学習指導法や教材の内容について改善を行った。

・学習指導を充実させるために、学習者用端末の使い方を丁寧に説明し、タイピングの練習、ロイロノートの使い方など

年間通じて計画的に指導を行った。その結果、授業での活用頻度も増え、生徒の書いた文字や文章をすぐに確認できるようになった。また、指導者からすぐに生徒に対しフィードバックすることで、より効率的に学びが深まった。タブレット内の翻訳機能も使って母語による支援を行い、学習の理解度がさらに高まった。

#### ○校内連携による指導の充実

・研究部主催の研究委員会を毎月実施し、生徒一人ひとりの国語(日本語)の指導状況や習熟度を確認し、教職員全体で共有するように努めた。また、使用教材の情報を共有するなどして、具体的な指導に生かすことができた。

・日本語指導支援員と教員が、生徒の学習の進捗状況を共有することにより、連携して指導を行うことができた。

さらに、日本語指導支援員が教員に対し、教材を紹介し、全体の指導力向上を図ることができた。

・進学を希望する生徒(本年度は4名)に対して、進路指導主事を中心に生徒一人ひとりと丁寧に複数回懇談を行い、それぞれにあった進路を決定した。また、受験に向け、必要な学力をつけるための個別の教材を作製し、授業前の個別指導を行った。生徒が目標に向け意欲的に取り組んだこともあり

日本語能力は着実に向上し、数学・英語の理解も進んだ。

・毎月1回、生徒指導部主催の「情報交換会」を開催し、生徒の出席状況、家庭や就労の状況等の共有と連携を推進することができた。

#### ○教職員研修の充実と指導力向上

・校内研修として、教員間で日々授業に役立つ教材や指導法(日本語指導を含む)について、指導力向上のために日々

高め合う機会を設けた。

・8月19日（月）

昨年度と引き続き、合同会社ADFEC(アデフェック)代表社員の古田朋美氏を講師として招き『「やさしい日本語」の考え方』をテーマに校内研修を実施した。日本語の難しさを知り、やさしい日本語を使うポイントをつかんだ上で、実際に使うことで、外国から見た日本語を客観的にみる視点に気づくことができ、生徒への伝え方や日本語指導について見直す機会となった。

・9月19日(木)

岸和田市主催の「外国にルーツのある子どもたちの受入れと支援」をテーマとした人権教育研修に代表の職員が2名参加した。講師自身がこれまで携わってきた日本語指導の事例をもとに、コミュニケーションを中心とした授業づくりのヒントや多文化共生教育の必要性を再確認することができた。

・2月12日(水)

岸和田市主催の「やさしい日本語」をテーマとした研修に参加した。日本での生活で、外国人が抱える困り感を想像し、具体例を中心に、伝え方を考えるグループワークを行った。学校で説明している内容が、生徒にとって分かりやすいものであるか、より分かりやすい言葉はないかを改めてふりかえることができた。

・12月4日（木）、5日（金）

第70回全国夜間中学校研究大会（東京大会）に代表職員1名が参加した。他校の実践とその成果についての発表を受け、校内での更なる指導力向上に活かすことができた。

いずれの研修も、参加した職員から全教員へと共有し、校内全体の日本語指導を含む指導力の向上を図った。

#### ○平和教育の推進

・広島への宿泊学習にむけて、年間全14回の人権平和学習を実施した。絵本教材をもとに、世界で起きている貧困や平和などの人権的課題を、ワークを通して疑似体験しながら、また、視覚教材や動画資料から想像しながら、平和について学び考える機会を設けた。生徒たちの理解がより深まるように、タブレットを使いながら、優しい日本語を意識した表現や映像や写真を交えて学習を進めた。また、配布した資料にもやさしい日本語で表記した文章や、各生徒の母語に翻訳した文章を印刷して使用した。

・2月18(水)に「平和を語る会」を実施した。修学旅行の感想や平和学習を振り返ってのまとめを、発表するための原稿を

書く際に、伝えたい言葉を日本語で表すために職員と協力しながら調べ、発表した。この経験により、生徒たちがより自信を持って、日本語を話すことができるようになった。

#### ○学校行事等の充実

・各学校行事の前には、教員から事前指導をする際に、やさしい日本語を使って丁寧に伝え、その後に生徒同士が交流やグループ活動を通してポスターづくりなどに取り組む機会を設定した。それにより、生徒同士が母語ではなく、簡単な日本語でのコミュニケーションでやりとりする姿が見られるようになった。また、生徒同士のつながりが深まったことで、意欲的な行事への参加につながった。

・5月19日（日）

近畿夜間中学校新入生歓迎会（奈良県立社会福祉総合センター）へ参加後春の校外学習を実施した。23名の参加で東大寺の大仏を見学、奈良公園などを散策し、日本の文化や自然に触れ見識を深められた。

・6月21日（金）

校内運動会を実施。生徒主体で、司会、進行など役割を分担して取り組んだ。日本語レベルにあわせて、やさしい日本語や英語でルール説明をし、ジェスチャーや具体物を使いながら競技をすすめた。

・8月5日（月）

平和登校日を実施。人権学習や日本語指導の時間を設定し、修学旅行に向けて、学習意欲がさらに高まるよう工夫した。

・11月23日（土）24日（日）

姫路・広島への修学旅行を実施。姫路城の見学や周辺の散策、お抹茶体験、日本語で書かれた看板を読み取る、日本語を使って道を尋ねる、買い物をする、日本の文化に触れるなどこれまでの学習で積み上げたスキルを活かすことができた。また、2日目の平和資料館・平和記念公園を見学の際には、日本語で書かれた展示資料を読んだり、資料館の方に日本語で質問をしたり、説明を聞き取りながら、平和について学び、考える時間をつくることができた。その後の、平和セレモニーでは、代表が、生徒自身の思いを日本語で表した平和宣言を読み上げ、生徒製作の折り鶴のモニュメントを奉納した。バスでの移動中は、レクレーションを行い、やさしい日本語を使い、行程にまつわるクイズを出しながらコミュニケーションを図った。2日間の宿泊学習を終え、生徒一人ひとりが、これまでの学習を活かしたことへの達成感を感じ、同時に日本語を進んで活用する態度を養うことができた。

・12月18日（水）宿泊学習後に、広島で学んだことを感想にまとめ、交流する時間を設定した。日本語で伝えたり、母語

と日本語を織り交ぜたりしながら、伝え方を工夫することで生徒自身の力を最大限発揮することができた。

・1月29日（水）料理集会を実施。生徒と教員がグループに分かれ、生徒自身の母国の料理を作って交流した。

母国の料理を披露するための話し合いや必要な材料の買い出しを生徒が行い、買い物をする際の日本語でのやり取りを事前に学習し、活動につなげた。また、料理の説明を日本語で行いつつ、互いの国の食文化に触れる場となった。

・2月9日（日）

近畿夜間中学校連合作品展に参加。「平和」をテーマとした共同作品を製作するために、生徒同士が交流する時間を設けた。

・3月5日（水）

卒業生（今年度は4名）を送る会として「お別れ会」を開催。音楽の授業で取り組んだ各コースの合奏やダンス、有志による母国の歌やダンスの発表を通して、それぞれの文化を相互に理解する場となった。また、最後には、日本語を使って卒業生自身の思いを語り、これまでの学習の成果や取り組みを互いに振り返る機会をつくった。

#### ○冊子の作成と活用

・学習のまとめとして、文集「希望」第47号を作成。生徒自身の目標や希望、日々の思いなどを日本語で表現することにより、これまでの学習成果の確認と振り返りに資することができた。

・2月12日（水）に「希望を語る会」を実施した。

冊子「希望」の作文を全体の前で、日本語でのスピーチを行った。今年度は、スピーチ後に日本語での質疑応答を行い、学習の成果を一人ひとりがふりかえることができた。また、生徒たちが語り合うことで尊重し合える人間関係づくりにつながった。

#### ○公開授業等による夜間学級の周知

・4月19日（金）

泉佐野市立佐野中学校夜間学級の教員が来校、授業見学を行った。

・9月17日（火）

貝塚市人権教育研究会（多文化共生部会）が、研修の一環として本校夜間学級を見学（貝塚市の小中学校教員18名が来校）。

・9月27日（金）

花園大学の学生9名が来校し、授業見学を行った。

・10月24日（木）、25日（金）

オープンスクールを設定し、本市教育委員会及び市内小中学校の教職員に案内。18名（24日）12名（25日）が参加。

・12月16日（月）～1月15日（水）

地元テレビで「(本市)夜間学級」の話題を取り上げ、市民に向けて周知を行った。

・2月6日(木)

花園大学学生が9名来校し、授業参観を行った。

・2月17日(月)～25日(火)

市役所内ロビーにおいて、生徒が制作した作品を展示。夜間学級の紹介ポスターも掲示し、周知に努めた。

以上のような活動を通じて、市民の方々に生徒たちががんばって取り組む前向きな姿や夜間学級といった学びの場、学び続ける素晴らしさを伝える広報活動の一環としても有意義であった。